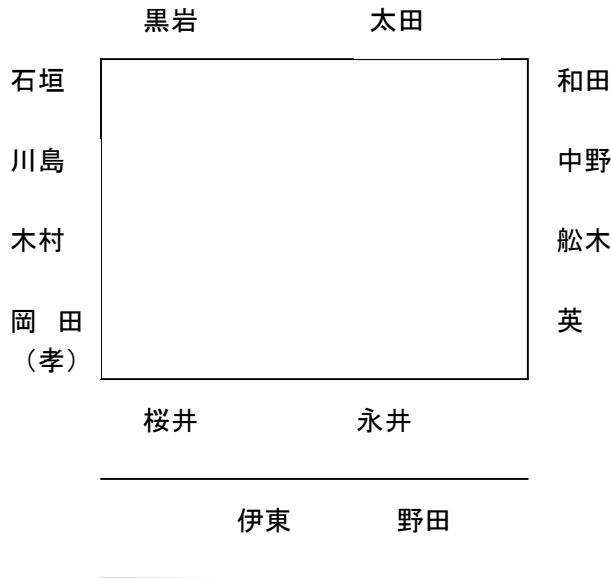


作成日：2010年7月5日

作成：事務局

【席順】



日時	2010年6月26日(土) 15:00~17:10		
場所	東京ステーションコンファレンス 601号室		
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・黒岩 卓夫 ・石垣 泰則 ・太田 秀樹 ・和田 忠志 ・中野 一司 ・川島 孝一郎 ・岡田 孝弘 ・木村 幸博 ・桜井 隆 ・永井 康徳 ・英 裕雄 ・船木 良真 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟 静岡 栃木 千葉 鹿児島 宮城 神奈川 岩手 兵庫 愛媛 東京 愛知 	<ul style="list-style-type: none"> 浦佐萌気園診療所 城西神経内科クリニック おやま城北クリニック あおぞら診療所高知潮江 ナカノ在宅医療クリニック 仙台往診クリニック オカダ外科医院 もりおか往診クリニック さくらいクリニック たんぽぽクリニック 新宿ヒロクリニック 三つ葉在宅クリニック
陪席	<ul style="list-style-type: none"> ・野田 広 ・伊東 政彦 		<ul style="list-style-type: none"> 国立長寿医療研究センター 国立長寿医療研究センター

<p>議題等</p>	<p>開会 ○会長挨拶 ○出席者 世話人 近況・活動報告 (1) 報告事項 ○事務局 事務局所在地 会員の入会状況 ○研修/教育局 日本医師会研修 DVD作成 雑誌編集等 訪問看護師研修等 ○IT/コミュニケーション局 ○調査・研究局 ○在宅医療助成勇美記念財団助成 ブロック在宅医療推進フォーラム 準備中：北海道・東北・北関東・東海北陸・四国・九州 近畿ブロックについては、財団が折衝中 ○都道府県別 支部 組織状況 東京都 静岡県 その他 (2) 会計報告と承認 (3) 議事 ○本会の運営方針 方法 会員拡大 ご要望 HP活用 その他 ○世話人拡大（推薦手続き） 世話人辞退 ○在宅医療助成勇美記念財団 10周年 記念 在宅医療推進フォーラム 企画 ○次回開催日程（案）平成22年11月22日（月）*フォーラム前日 東京 ○次々回開催日程（案）平成23年 3月11日（金）*日本在宅医学会前日 大阪 ○その他 閉会</p>
<p>議事等</p>	<p>開会 15:00 ○会長挨拶 黒岩卓夫より、平成22年度第1回世話人会議の開会の挨拶が行われた。 黒岩：政権交代があり、全体の医療・社会保障制度の中での在宅医療の立場がまだ不確定である 気がしている。現場からの声で大きく左右されるであろう。医療・介護が大きな切り札となり、 社会を変えていけることを期待する。 また、地方厚生局からの指導で、在宅医療を積極的に行っている医療機関が不快な思いを している事実もある。先日、厚生労働省へ伝えてきたところだが、在宅医療を広めるにあたり ニーズの高いことは、今後も言い続けていくことが必要である。 在宅ケアを支える診療所・市民ネットワークのプレ大会が、7月4日新潟市で行われる予 定である。 日本医師会雑誌『在宅医療 午後から地域へ』が発行され、内容が斬新で分かりやすく好 評を得ている。在宅医療推進のための利用を願う。 ○出席者 世話人 近況・活動報告 石垣：愛知県・岐阜県に続き静岡県支部が立ち上がり、東海3県が出揃った。東海ブロックの活 動は、10月11日に予定している。医師会と協調していく。11月23日に報告する予定である。 パーキンソン病の教科書の中で、「パーキンソン病と社会資源」の部分を担当し、当会の ことを社会資源として紹介している。 川島：厚生労働省 特別研究事業『終末期の生活者の生き方を支える相談・支援マニュアル策定 に関する研究 総括研究報告書』の中で、ICFについて記載がある。WHO国際生活機能分類： ICFは、生活機能（生きることの全体）を主体にした分類であり、在宅医療に通じるとこ ろが大きく、ICFを基準に在宅医療を進める必要がある。 木村：東北ブロックを10月9日に開催予定である。盛岡でも在宅医療中心の診療所が出来てきて いる。 岡田：在宅ネット横浜が広がりつつある。支援診療所は250程度であるが、在宅医療を行っている 医師と興味のある医師を対象としている。横浜市主催の在宅医療推進の研修会が2回行わ</p>

れ、講師を行った。それについて、補助金がおりの見込みである。医師会と協調して広げていく。

桜井：近畿はミックス型診療所が多い。『在宅医療 午後から地域へ』を共通のツールとして活用し、在宅医療推進に役立てたい。制度がミックス型診療所にも配慮された上で整備されていく事を望む。講談社より『大往生なんか、せんでもええやん！』発行。

永井：開院10年を迎える。9年前より「在宅医療の基礎知識」のテストを行ってきた。今年は、勇美記念財団の助成を受け、全国統一の「在宅医療の基礎知識」テストを行った。

四国ブロック11月14日開催予定。

愛媛大学の社会学実習の疫学調査の一環で、在宅療養支援診療所に焦点を当てた研究（実態調査、問題点・課題等）を行うにあたり、当連絡会の協力の元、アンケートをとりたい旨の依頼があった。→討議事項

英：昨年11月に東京支部が立ち上がった。東京都医師会の地域福祉委員会（委員長：新田國夫）で、在宅医療についての討議がなされている。メンバーが重複する会もあり、東京都支部の独自のあり方の検討の必要性を感じている。

厚生労働省の「チーム医療推進のための看護業務検討WG」（特定看護師のあり方を検討）からの当連絡会会員へのアンケート協力依頼について。訪問看護ステーション・在宅療養支援診療所・病院を対象に8月中にアンケートを実施する予定、ご協力を。救急医療の看護業務と在宅医療での看護業務は異なるので難しい。

新宿医師会の往診支援事業では、「新宿医療安心カード」が600枚配布された。往診150件/月から200件/月。目標は400件。今までの感触では、往診は数回に及ぶ（①コール→処置②経過観察③生活指導等）ため、在医総管の算定が可能となるケースが多い。今後まとめていく。

船木：3月頃名古屋市医師会で、在宅医療の研修会が行われた。参加者が少なく、医師会を巻き込みたいと活動を行っているが、難しさを感じている。

最近行った研究では、夜間往診に対して都市部ほど訪問看護師の機能が低く、郡部でより看護師機能が高い。都市部には独立した訪問看護ステーションが多いことが要因と思われる。

事前指示書についての質問を受ける機会が多いが、それに対しての良い回答について教えて欲しい。

→川島：メール等で詳細に質問頂ければ、回答する。

(1) 報告事項 15:45

○事務局

太田：事務局所在地について、今までは勇美記念財団の事務所の一角であったが、独立し同フロアの別室に移った。住所等は変更なし。

会員の入会状況、別紙の通り700名となった。引き続き拡大にご協力を。

○IT/コミュニケーション局

中野：現在595名が参加するMLで活発な討論が行われている。今後、HPの充実を図りたい。いずれは、ツイッターの活用も検討しても良いのでは。

開業から11年、医師が楽できるシステム作りを心がけ、ITの利用・事務員に仕事の振り分けを行ってきた。今まで患者180名を常勤1名でやってきたが、今年4月から、常勤2名に。訪問看護ステーションについては、自前に4割、外部に6割とし、連携を持つことで地域の活性化を図っている。

九州ブロックは10月31日開催予定である。その後、各県支部の立上げを考えている。訪問看護ステーション連絡協議会が各県医師会の参加にあるので、各県支部も医師会と協同しての活動を考えている。

○研修/教育局

和田：・日本医師会雑誌特別号『在宅医療—午後から地域へ』6月初旬に刊行。

・日本医師会「平成21年度 在宅医療支援のための医師研修会」（3月28日）にて、「在

- ・「在宅医療をサポートする医師研修カリキュラム」太田・平原・和田が発表を行った。
- ・訪問看護振興財団からの訪問看護師への研修会講師依頼があり、世話人を中心に引き受けた。
- ・社団法人 全国訪問看護事業協会からの講演依頼については、鈴木央・平原が講演。
- ・第1回日本プライマリ・ケア連合学会学術会議、6月27日9時～12時、「はじめよう在宅医療2010」座長：太田、和田。
- ・日本医師会『在宅医療—午後から地域へ』関連研修会、8月26日、太田・和田講師。
- ・多職種協働の研修用DVD作成。10月17日、日本在宅医学会生涯教育プログラムで上映予定。
- ・勇美記念財団助成による研修会、当連絡会8ブロックで行う予定。
- ・四国ブロック在宅医療推進フォーラムは、11月14日に開催予定。記念講演は、大島伸一先生、高知県医師会の後援は得られそう、4県の医師会の後援を検討。歯科医師会・薬剤師会の後援も得たいと考えている。主催をどのような形にしたら良いか。

→太田

○調査・研究局

川島：昨年も、厚生労働省の研究費で在宅療養支援診療所のデータをまとめた。必要な方は、問い合わせを。平成22年4月時点で、在宅療養支援診療所数、約12600件。1/3は未機能。全調査を行っているが、回答数は2割強の3000件弱。それに基づき、在宅療養支援診療所のマップを作成した。仙台往診クリニックのHPトップに在宅療養支援診療所のマップあり、約1100箇所の登録がある。当連絡会のHPとリンクすればさらに利用しやすいのでは。より多くの在宅療養支援診療所にマップへの参加を呼びかけ、当連絡会への入会を促して行きたい。

研究に関して、会員の中で、研究に興味のある方を募る。在宅医療に関する研究課題を列挙し、MLを利用し、進めていく。研究方法については、指導を行う予定である。

今後、年々死者が増えていくなかで、在宅療養支援診療所の機能の一つ「自宅で最期を」を支えていけるか。国民の約7割は、自宅で最期を迎えたいと望んでいるが、実際は16%程度である。

○在宅医療助成勇美記念財団助成 ブロック在宅医療推進フォーラム

太田：ブロック在宅医療推進フォーラム、それぞれ100万円を限度に、8ブロックで。北海道・東北・北関東・東海北陸・四国・九州は準備中。近畿ブロックについては、財団が折衝中。勇美の意向に沿って、勇美記念財団・当連絡会・訪問看護ステーション連絡協議会の共催で行う。当連絡会については、全国在宅療養支援診療所連絡会・県支部・ブロック支部、どの名称を用いるかは各ブロックの担当者に任せる。

(2) 会計報告と承認 16：20

太田：資料の通り、監事、苛原氏に監査を頂いている。→承認。

(3) 議事 16：25

○本会の運営方針・方法

太田：ITフル活用。HPのさらなる活用も。

ML・均霑化委員会で挙げた問題を厚生労働省に届けてきた。局長らは、それらの問題点を認識している。2年後の医療保険・介護保険の同時改定に向けてラディカルに作り直す意向がある。当会からの意見への期待も寄せられている。MLで問題となっている在宅療養支援診療所に対しての行き過ぎた指導については、必ず改善されるであろう。

川島：現在、在宅での死者は約3万人。まだまだ十分ではない。死者が増えていく中で、在宅療養支援診療所はついていけないのではないかという危機感を持っている。在宅療養支援診療所の立場は、医療保険点数上の制度であり、非常に不安定である。在宅療養支援診療所の立

	<p>場を担保する法の整備を望む。</p> <p>○世話人拡大</p> <p>太田：現在の世話人について、基準等はなく行ってきた。今後、世話人を増やしていく際の基準・世話人の定数・推薦等の手続きについては、今後、世話人会MLで議論を続けていきたい。将来的には各都道府県に世話人をおいてもいいのではないか。地域で活躍されている医師の推薦を。</p> <p>石垣：選挙等、民主的な手続きが理想的と考える。</p> <p>○在宅医療助成勇美記念財団 在宅医療推進フォーラム 11月23日(火)</p> <p>太田：今年は財団設立10周年記念在宅医療推進フォーラム、読売ホールで開催予定。当連絡会は、6箇所でのブロックフォーラムの報告を予定している。</p> <p>石垣：午前中は、ブロックフォーラム開催の報告、午後は、多職種協働についての内容を予定している。詳細が決まり次第連絡する。</p> <p>○在宅療養支援病院について</p> <p>石垣：在宅療養支援病院(平成22年4月現在、約200件)に対して、在宅医療推進フォーラム・当連絡会等へのお誘いについてどのような対応をしていくべきか。病院医師もノウハウ知りたいのでは。</p> <p>→近隣の在宅医療支援病院の医師は、当連絡会・在宅医療推進フォーラム等にお誘いし、協同していくこととする。</p> <p>→当連絡会の会員資格等については、後で議論することとする。</p> <p>○愛媛大学の社会学実習で、在宅療養支援診療所に焦点を当てた研究への協力について。</p> <p>→積極的に協力していく。</p> <p>→今後、何らかの研究等への協力要請があった際は、世話人会MLで配信し、反対がなければ協力していく。</p> <p>○次回開催日程 平成22年11月22日(月)フォーラム前日 18:30~20:30 東京</p> <p>○次々回開催日程 平成23年3月11日(金)日本在宅医学会前日 大阪</p> <p>石垣：在宅医学会のプレングレスとしての開催を検討しても良いか。</p> <p>→検討事項。情報は世話人会MLで共有することとする。</p> <p>閉会 17:05 進行役：太田秀樹</p>
資料	<p>○一般社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会 平成22年度第1回世話人会 議事次第</p> <p>○一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 社員名簿</p> <p>○教育研修局より</p> <p>○IT/コミュニケーション局より</p> <p>○終末期の生活者の生き方を支える相談・支援マニュアル策定に関する研究 総括研究報告書</p> <p>○入会状況</p> <p>○平成21年度 第2期 社員総会資料 事業報告書・財務諸表</p> <p>○平成21年度 第3回社員総会 議事録</p>
事務局	<p>・岩本 佳代子</p>